

広島県歯科医師連盟通信 VOL.6

石井議員の“みどりの窓”

現在、自民党国会議員286名が参加する国民歯科問題議員連盟は4月22日、自民党本部にて第3回総会を開催し、「歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持の推進に関する法律に関する法律案骨子」を了承した。今後、この骨子を基に法案化され、5月連休明けに国会提出し、今国会会期中での成立を目指すこととなる。

総会では保岡議連会長がこれまでの経緯を説明。続いて大久保日歯会長が挨拶の中で、65000人の会員を代表して、議連の会員を始めとする自民党国会議員へ謝意を述べた。事務局長を務める石井議員による骨子の説明後、全会一致での承認が得られたため早々の散会となった。終了後にも会場を訪れる議員が後を絶たず、石井議員は30分間その対応に追われた。出席者は160名超（議員約90名、秘書約70名）。

同法案は、生涯を通じた口腔の健康保持に関しての立法化を希望していた日本歯科医師会の提言を反映したもので、日歯は昨年8月「これからの口腔保健のあり方に関する考え方・生涯を通じた口腔保健を推進するための法的基盤の整備を目指して」と題する提言をとりまとめていた。

今回の法案骨子は、この提言に基づき職域代表である石井議員を軸に、日歯・参議院法制局・厚労省歯科保健課、それに保岡議連会長と調整を行ったほか、全国知事会で構成される地方3団体等、関係省庁からも幅広く意見を聴取し法案成立後、円滑な法案を期するため修正協議を重ね調整を行った。

同法案は具体的には、国、地方公共団体が国民に対する歯科検診受診の勧奨や、障害者や介護を必要とする高齢者の口腔の健康保持施策の推進など、必要な施策に取り込む。こうした施策を推進するため、都道府県や、保健所を設置する市、特別区が「口腔保健支援センター」を設置することができるようにするもの。

歯科医定員調整、必要性を示唆 舛添厚労相

舛添要一厚生労働相は21日の閣議後の会見で、歯科医師過剰の問題に触れ「文部科学省との調整になるが、医師不足や看護師の問題については次々と検討している。必要あれば歯科医師についても同様に検討する必要がある」と述べ、歯学生の定員に関する検討の必要性を示唆した。「歯科医師もニーズが高まれば供給も必要となってくる。ずっと歯を保つことはいろいろな意味で良いことなので、予防医学のような試みを歯科医自身に一生懸命やってもらいたい。国民がそこに通えば経営的にも成り立つ」とし、歯科医師側の努力の必要性も指摘した。